



鹿児島県言語聴覚士会ニュース

今号目次

巻頭言

1-2ページ

事務局通信

3-6ページ

学術局(成人)

7ページ

学術局(小児)

8ページ

学術局(生涯学習)

9ページ

学術局(新人教育)

10ページ

地域局

(鹿児島地区担当)

11ページ

社会局

(地域リハ・広域)

12ページ

社会局

(地域リハ・市内)

13ページ

社会局

(公共事業・保険)

14ページ

社会局(広報局)

15-17ページ

財務局

18ページ

編集男誌

巻頭言

鹿児島県言語聴覚士会 会長

原口 友子

今年は山間部では雪が降るような3月でしたが、下旬になりすっかり春らしい陽気になるとともに桜がほころび季節になりました。桜のほころび始めた3月22日、23日に第13回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会鹿児島大会が開催されました。本大会の開催に向け鹿児島県言語聴覚士会理事会では、1年半前から12人からなる実行委員会を立ち上げ、開催準備を進めてきました。この学会は、学会業者が入らない手作りの学会ですので、それぞれの担当委員が多くの時間を割き準備を重ねてきました。参加者募集を始めた当初、なかなか参加者が増えずたいへん気を揉みましたが、インスタグラムやLINEでの広報、九州各県の言語聴覚士会への広報依頼などを繰り返し、最終的には365名の方のご参加をいただくことができました。また、特別講演をいただいた椎名英貴先生や宇野彰先生、シンポジストの黒羽真美先生方からは、実行委員やスタッフの細やかな対応や多くの参加者が熱心に参加している様子から、大変素晴らしい学会ですねとの言葉をいただきました。

この鹿児島県言語聴覚士会ニュースペーパーの巻頭言を書かせていただくのはこれが最後となると思いますので、この機会に、長年、九州の言語聴覚士で力を合わせ継続してきたこの学会の歴史と鹿児島県のSTの歴史の一部について皆様にお伝えさせていただこうと思います。

今回開催された九州地区学術集会鹿児島大会は第13回となっていますが、この学会の前身にあたる、九州言語臨床研究会、略して「九言臨」の第1回大会は今から38年前の1987年に開催されました。この頃は、もちろん「言語聴覚士」という資格は存在せず、この翌年1998年に日本医師会、歯科医師会を含む医学・歯科医学団体、日本言語療法士協会などからなる医療言語聴覚士 資格制度 推進協議会が発足し、STの国家資格化の検討が始まりました。その後も、九州では毎年、各県持ち回りで、各県のST団体の尽力により九言臨は継続されていました。当時はネット環境などもちろんありませんので、手作りの名簿をもとに各施設に開催案内や演題募集を行っていました。

1991年開催の第5回九州言語臨床研究会大分大会の参加者は62名と記録されています。この頃、この研究会は、ほぼ全員が同じ宿舎に泊まり込み、昼間は演題発表や講演で研鑽し、夜は酒を酌み交わしながらアカデミックな議論だけでなく日頃の悩み、将来について年齢や所属の境なく熱く語り明かすのが常で、たいへん楽しい時間を過ごしました。国家資格としての身分の保証はなくてもSTそれぞれが目の前の患者さんに最高の結果をもたらす言語(聴覚)療法を提供するためにSTとしての研鑽に努めていました。

1997年12月に、ST待望の言語聴覚士法が制定されましたが、その前には、日本言語療法士協会をはじめ、全国のSTは各県のSTの団体を中心に関係機関への資格化についての協力依頼や署名活動に精力的に取り組みました。私も県内の養護学校や障害者団体を訪ねて回りました。そして、1999年3月に第1回国家試験が実施され、国内に4003名の言語聴覚士が誕生しました。この国家試験の前年まで九言臨は継続され、鹿児島大会まで12回を数えました。この時の大会の参加者は、83名でした。国内のSTの動向としては、2000年1月に、日本唯一の言語聴覚士の学術・職能団体として「日本言語聴覚士協会」が設立されました。これを受け、鹿児島県においても、2001年10月にその前身の鹿児島県臨床言語研究会から全ての会員が移行し、鹿児島県言語聴覚士会を発足しました。その10年後には、地域リハビリテーションを促進するための行政の事業に参画するため法人格を取得しました。そして同じ年に第1回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会が開催されました。

ここで、私の好きなSTに対する新聞記事をご紹介します。これは、前述した1998年に医療言語聴覚士資格制度推進協議会が発足した、3か月後の朝日新聞の社説の記事です。

「(前略)最も大切なのは実力のある人材を養成することだ。『頭数』だけを欧米並みにそろえればいいわけではない。スピーチセラピストは大変な創造性を要求される。なにしろ言語障害は百人百様だ。その一人一人の言語生活や心理状態に合わせて検査、訓練のプログラムを手作りしなければ効果が望めない。(中略)国民の信頼に答えられる、誇りのある専門職をつくり資格法が一日も早くつくられるよう期待する」この記事から、STの国家資格化への期待とエール、STのあるべき姿をも伝わってくるような気がします。

ここまで九州地区学術集会と鹿児島県言語聴覚士会のこれまでを振り返ってみました。

私たちが言語聴覚士として存在するこの今この時は、この言語聴覚領域を開拓、守ってこられた先達の方々、そして、職能団体の力によるところが大きいことを感じます。2025年問題の今年を迎え、15年後の2040年どのような社会になっても、私たちがこれまで大切にしてきた言語聴覚療法を必要とする方々に真摯にevidence based practiceを提供し人生を支援することは変わらず必要とされていると思います。鹿児島県のST、九州のST、全国のSTと手を携え、8年後の鹿児島で熱気のある九州地区学術集会(全国学会?)が開催されることを期待したいと思います。

鹿児島県言語聴覚士会 会長
原口 友子

事務局通信

10月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・始良伊佐地区令和7・8年度介護認定審査会委員の推薦に関する件について協議され継続審議となった。
- ・指宿市発達相談への講師派遣に関する件について協議され菊野病院に依頼することとなった。
- ・2027（令和9）年度総会学術集会日程および開催場所に関する件について協議され承認された。
- ・下半期新人教育研修会のスケジュールおよび内容について協議され承認された。
- ・鹿児島地区症例検討会について協議され現地（対面）開催となった。
- ・始良・伊佐地区令和7・8年度介護認定審査委員の推薦に関する件について協議され、始良霧島地区会員より選出することとなった。
- ・LINE配信の基準について協議され承認された。
- ・歯科医師会合同研修会講師について協議され承認された。
- ・鹿児島県介護実習・普及センター依頼の講師派遣報告があった。
- ・令和7年度以降の専門職派遣事業案についての意見交換について報告があった。
- ・鹿児島市お達者クラブについて報告があった。
- ・ホームページ掲載（広報）について報告があった。
- ・上半期監査について報告があった。
- ・訪問リハ実務者研修会について報告があった。
- ・失語症者支援者養成について報告された。
- ・PTOTST連絡協議会研修会について報告された。
- ・九州地区学術集会鹿児島大会進捗状況について報告があった。

11月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・始良地区歯科医師会「意見交換会」に関する件について協議され承認された。
- ・日置市介護認定審査会委員の推薦に関する件について協議され承認された。
- ・選挙管理委員会設置に関する件について協議され承認された。
- ・LINE配信依頼受理の基準について協議され承認された。
- ・九州地区学術集会鹿児島大会一般演題啓発について協議され承認された。
- ・北薩地区症例検討会スケジュールおよび内容について協議され承認された。
- ・LINE公式アカウントプランの見直しについて協議され承認された。
- ・歯科医師会の公文書について協議され承認された。
- ・九州地区学術集会鹿児島大会スタッフの理事参加について協議され承認された。
- ・臨床実習指導者講習会土会窓口担当者について協議され承認された。
- ・鹿児島県介護実習・普及センター依頼の講師派遣報告があった。
- ・リハ専門職派遣事業について報告があった。
- ・鹿児島市お達者クラブについて報告があった。
- ・ホームページ掲載（広報）について報告があった。
- ・学校教育連携担当者連絡協議会について報告があった。
- ・2024年度下半期生涯学習プログラム基礎講座について報告があった。
- ・南薩地区交流会について報告があった。
- ・LINE公式アカウント数について報告があった。
- ・大隅地区交流会について報告があった。
- ・失語症者支援者養成について報告された。
- ・PTOTST連絡協議会研修会について報告された。
- ・九州地区学術集会鹿児島大会進捗状況について報告があった。

事務局通信

- ・日本言語聴覚士協会都道府県士会会長会議について報告があった

12月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・令和7年 鹿児島県言語聴覚士会学術集会特別講師について協議され承認された。
- ・第38回鹿児島リハビリテーション医学研究会ポイント取得学会申請について協議され承認された。
- ・日置市介護認定審査会委員の推薦に関する件について報告があった。
- ・リハ栄養口腔連携研修会の開催について報告があった。
- ・リハ専門職派遣事業について報告があった。
- ・鹿児島市お達者クラブについて報告があった。
- ・ホームページ掲載（広報）について報告があった。
- ・学校教育連絡協議会について報告があった。
- ・2024年度下期生涯学習基礎講座について報告があった。
- ・北薩地区症例研究発表会について報告があった。
- ・大隅地区交流会について報告があった。
- ・失語症者支援者養成について報告された。
- ・PTOTST連絡協議会研修会について報告された。
- ・九州地区学術集会鹿児島大会進捗状況について報告があった。
- ・日本言語聴覚士協会都道府県士会会長会議について報告があった
- ・鹿児島市医師会報寄稿について報告があった。
- ・選挙管理委員長について報告があった。

1月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・鹿児島県歯科口腔保健推進協議会実務関係者検討会委員の推薦について協議され承認された。
- ・令和6年度鹿児島県介護実習・普及センター運営協議会参加者について協議され承認された。
- ・鹿児島市保健づくり推進市民会議参加に関し協議され承認された。
- ・奄美大島地区介護認定審査会委員及び障害支援区分市町村審査会委員の推薦について協議され承認された。
- ・第14回口腔機能管理推進協議会参加者について協議され承認された。
- ・鹿児島高次脳機能研究会の後援について協議され承認された。
- ・令和7年 鹿児島県言語聴覚士会学術集会懇親会について協議され承認された。
- ・鹿児島口蓋裂STの集いZoom使用について協議され承認された。
- ・選挙管理委員会より役員選挙スケジュールについて報告があった。
- ・リハ専門職派遣事業について報告があった。
- ・鹿児島市お達者クラブについて報告があった。
- ・ホームページ掲載（広報）について報告があった。
- ・県士会ニュース計画について報告があった。
- ・令和6年度障害福祉担当者連絡協議会について報告があった。
- ・生涯学習基礎講座後の昼食会について方向があった。
- ・2024年度下期生涯学習基礎講座について報告があった。
- ・令和6年度鹿児島市口腔保健連絡協議会について報告があった。
- ・鹿児島地区症例検討会について方向があった。
- ・失語症者支援者養成について報告された。
- ・PTOTST連絡協議会研修会について報告された。
- ・九州地区学術集会鹿児島大会進捗状況について報告があった。
- ・リハ栄養口腔の研修会案内について報告があった。

- ・言語聴覚士会・始良地区歯科医師会連携の協議会について報告があった。

2月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・すこやか親子教室・相談事業における言語聴覚士の派遣について協議され承認された。
- ・令和7年（2025年）度定時社員総会に関して協議され承認された。
- ・選挙管理委員会より選挙結果の公表および理事会推薦理事について協議され継続審議となった。
- ・令和7年 鹿児島県言語聴覚士会学術集会について協議され承認された。
- ・発達部会部長について協議され継続審議となった。
- ・臨床実習指導者講習会について協議され承認された。
- ・鹿児島県介護実習普及センター運営協議会の開催時間に変更になった旨の報告があった。
- ・令和6年度地域リハビリテーション活動支援に関する全国担当者会議について報告があった。
- ・リハ専門職派遣事業について報告があった。
- ・鹿児島市お達者クラブについて報告があった。
- ・ホームページ掲載（広報）について報告があった。
- ・県士会ニュース計画について報告があった。
- ・障害福祉担当者連絡協議会について報告があった。
- ・新生児聴覚スクリーニング等環境整備協議会について報告があった。
- ・生涯学習基礎講座 食事会について報告があった。
- ・鹿児島地区症例検討会について報告があった。
- ・南薩地区交流会について報告があった。
- ・「注文に時間がかかるカフェ」について報告があった。
- ・始良地区歯科医師会との合同協議会について報告があった。
- ・LINE公式アカウント登録者数について報告があった。
- ・大隅地区地域リハ連絡協議会について報告があった。
- ・リハビリテーション専門職派遣（大崎町）について報告があった。
- ・協会活動支援金申請について報告があった。
- ・会費未納者について報告があった。
- ・訪問リハ研究会について報告があった。
- ・鹿児島県歯科医師会主催リハ栄養口腔連携研修会について報告があった。
- ・失語症者支援者養成について報告された。
- ・PTOTST連絡協議会研修会について報告された。
- ・九州地区学術集会鹿児島大会進捗状況について報告があった。
- ・第14回口腔機能管理推進協議会について報告があった。
- ・鹿児島県POS連絡協議会役員選挙の告示について報告があった。
- ・鹿児島リハビリテーション医学研究会世話人会について報告があった。
- ・協会・都道府県士会連携体制構築担当者会議について報告があった。

3月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・令和7年度鹿児島県介護実習普及センター介護講座・研修に係る派遣について協議され承認された。
- ・新生児聴覚スクリーニング等環境整備協議会委員の委嘱について協議され承認された。
- ・選挙管理委員会より選挙結果の公表および理事会推薦理事について協議され承認された。
- ・令和7年度鹿児島市「介護予防地域ケア会議」助言者の推薦者について協議され承認された。
- ・鹿児島県言語聴覚士会 言語聴覚士所属施設マップの更新担当者（地域局）について協議され承認された。
- ・聴覚部会部員追加について協議され承認された。
- ・発達部会部長について協議され承認された。
- ・臨床実習指導者講習会について協議され、講師費とし予算を計上することとした。金額は継続審議となった。

- ・失語・認知・高次脳機能部会の活動に関して継続審議となった。
- ・総会時における研修会一覧掲載について協議され承認された。
- ・会議費が発生する範囲について協議され承認された。
- ・令和7年（2025年）度定時社員総会に関して報告があった。
- ・鹿児島県介護実習・普及センター運営協議会について報告があった。
- ・令和7年度リハ専門職派遣事業における専門職アドバイザー推薦者について報告があった。
- ・鹿児島市お達者クラブおよび意見交換会について報告があった。
- ・ホームページ掲載（広報）について報告があった。
- ・県士会ニュース計画について報告があった。
- ・基礎講座後の懇親会（昼食会）について報告があった。
- ・2024年度下期生涯学習基礎講座について報告があった。
- ・会議費について報告があった。
- ・協会活動支援金申請について報告があった。
- ・失語症者支援者養成について報告された。
- ・PTOTST連絡協議会研修会について報告された。
- ・九州地区学術集会鹿児島大会進捗状況について報告があった。
- ・口腔機能管理推進協議会・交流会について報告があった。
- ・鹿児島県専門職派遣に係る高齢者生き生き推進課地域包括ケア推進係 担当者との意見交換会について報告があった。
- ・鹿児島県リハビリテーション医学研究会世話人会について報告があった。
- ・鹿児島県PT・OT・ST連絡協議会役員選挙告示、立候補期間について報告があった。
- ・始良・霧島地区失語症交流会開催について報告があった。
- ・士会・協会連携体制構築担当者会議について報告があった。
- ・鹿児島県障害福祉課療育支援係担当者と聴覚障害児支援事業について報告があった。
- ・鹿児島県POS連絡協議会理事会について報告があった。

2025年3月理事会承認分まで



学術局 (成人)

第13回 九州合同学術集会 鹿児島大会のテーマは「守破離」～私たち言語聴覚士は何を守り、発展、革新させていくのか～であった。大会を通して、エビデンスというコトバを多く目にし、耳にする機会があった。そこで、今回は臨床におけるエビデンスについて考えてみた。

学術集会の講演を拝聴する中で、臨床においては、原則として根拠を元に介入を行う必要があるということ。現段階で明らかになっていない領域であっても、1つ1つの介入の中で仮説と検証を繰り返す必要があること。一方で、根拠がないものであっても、臨床家（セラピスト）として推奨される介入も大切にしていきたい。というメッセージが私の頭の中に残った。

自分の臨床に置き換えてみた。目の前に患者・対象者（児）がいる。初回の介入が終わり、ある程度ターゲットが見えたが、詳細はまだわからない。そのため、これまでの知見を元に仮説を立て、評価（または治療的評価）を行い、結果から仮説の検証を行う。これら一連の手続きは学生時代に習っている。丁寧に臨床と向き合う姿勢ということは普遍的なものなのかもしれない。では、どのように発展させていくのか？それは、私自身の知識の向上が必要である。今、学術的に分かっていることと、分からないことを知ると、何が「イレギュラー」なのかがみえてくる。これが、クリニカルクエスチョン（CQ）である。CQに改めて丁寧に向きあうことを積み重ねることこそが、その領域の発展、更には革新につながるのではないかと妄想してみる。私自身、まだまだ道半ばの半人前である。

エビデンスというコトバはどこか難しいコトバに感じるが、その根幹は目の前の患者・対象者（児）に対し、専門家としての責任をもち、真摯に誠実に向き合うことの大切さを表現したコトバなのではないか？と感じている。

学術局 成人学術担当 小倉道広

学術局 (小児)

小児学術局の松永です。

令和6年度も終わり、新しく令和7年度がスタートする時期になりました。別れがあれば出会いもあるこの時期ですが、会員の皆様にとってはどのような1年だったのでしょうか？そしてまた、どのような目標や楽しみをもって新しい年度も迎えられるのでしょうか？

私個人も新しい目標に向かって走り続け「動く、チャレンジしていく」ことを目標にスタートしたいと思っています！

小児学術では、5月19日に昭和大学 保健医療学部保健医療学教育学講師 武井良子先生をお招きし、「小児の構音障害の評価と訓練』をテーマに、「令和6年度 鹿児島県言語聴覚士会学術講習会」を開催しました。多くのご参加ありがとうございました。また、8月には、原田学園ことばの支援センター 言語聴覚士の小原路乃先生をお招きし、「ことばをはぐくむお手伝い」というテーマでお話をいただきました。医療機関や療育施設、教育機関、そして県外からも参加もありました。講演では、ことばをはぐくむために重要な基礎的なステップを学び、後半は発達段階に合わせた教材の紹介を実際の動画を用いてとても分かりやすく、楽しくお話しいただきました。先生オススメの教材作成講座では、参加者の皆さんと教材作成をして、実際に使ってみる時間をご準備されていきました。低コストでかつ作業が少ないにも関わらず、こんなに利用価値のある教材ができるとは！と参加者全員大満足の教材作成タイムとなりました。

今後も、小児学術局では講習会ではなく、会員同士の交流会や実践研修など、新しい形や「会員参加型」の活動も進めていきたいと思っていますので、ぜひご参加下さい！

小児学術担当 松永宏行



学術局 (生涯学習)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加・ご協力頂き、誠にありがとうございます。

令和6年9月21日(土)は基礎講座1『言語聴覚士の倫理』、基礎講座2『臨床実践』を講師に西野将太氏(株式会社L - はぴねす)をお招きし、ハイブリッド開催(現地+WEB)致しました。

基礎講座1では総数18名(県内WEB5名、県内現地13名)、基礎講座2では総数18名(県内WEB5名、県内現地13名)に参加して頂きました。

ホームページでも活動報告させて頂きましたが、・基礎講座1では、言語聴覚士の倫理について、日頃の業務の話を加えて頂き、とても分かりやすく説明して頂きました。この倫理については、何か堅苦しいそんなイメージが私にはあります。しかし、臨床をする上でも発表や研究をする上でも倫理はとても重要です。基礎講座の1番初めに倫理があるということは基礎の中でも、とても大切ということだと思います。日頃の業務に中でも常に倫理を考えながら言動していきたいと思った研修でした。

基礎講座2では、臨床について、言語聴覚療法の流れを中心に経験を踏まえて説明して頂きました。特に記録や報告書、計画書等の書類についてはとても重要だと思います。後で見返した時に責任がとれる記載を意識していきたいと改めて思いました。また、その根拠として、診療報酬やルールを知っておくことが大切だと感じました。

より良い臨床をする為にも、今回聴いた内容を守りながら、臨床実践したいと思った基礎講座1・2でした。

また、令和7年2月22日(土)は基礎講座3『チーム医療のありかた』、基礎講座4『言語聴覚士のキャリア形成』を講師に小牧 祥太郎氏(学校法人 原田学園 鹿児島医療技術専門学校)をお招きし、ハイブリッド開催(現地+WEB)しました。次回号で結果等の報告をさせて頂けたらと思います。

生涯学習基礎講座は、倫理や実務、キャリア形成、チーム医療や研究まで含んだSTとしてとても重要な内容となっています。鹿児島県士会員は無料となっているので、ぜひ周りの方も誘ってご参加下さい。

いちき串木野市医師会立脳神経外科センター リハビリテーション部
尾崎 幸平

TEL : 0993-32-9999

FAX : 0996-32-0496

学術局 (新人教育)

今年度は新人教育研修会と懇親会（昼食会）を各1回実施いたしました。ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。

第25回研修会では、加治木温泉病院の有川瑛人先生をお招きし「根拠に基づく失語症の臨床—認知神経心理学的エッセンス」と題して、失語症に関する基礎的内容について講話をいただきました。解終了後のアンケートでは、最も印象に残ったキーワードとして「一次情報」が挙げられ、感想で多く使われていたことばは「丁寧」と「繋げる」でした。参加者の皆様が自分の臨床を振り返り、見つめ直しながら明日からの臨床をイメージしながら聴講していただいたのでは、と感じました。明日からの臨床の一步目を変える、非常にインパクトのある研修会だったのではないのでしょうか。

懇親会（昼食会）は、生涯学習プログラム基礎講座の後に、参加者と講師でお弁当を食べる会を実施いたしました。養成校時代の同級生や教員との再会もあり、思い出話とそれぞれの現状を語りながら、多くの笑顔がみられる時間となりました。参加いただいた方からは非常に好評で、また企画させていただければと思います。お弁当も大変好評でしたので、次に向けておいしいお弁当屋さんの開拓も行っていきたいと思っています。

春になり、養成校からは新たな言語聴覚士が巣立ちます。巣から離れすぎる人も多くいるのですが、新天地で思いっきり自分らしさを発揮してくれたらと思います。新人教育研修の内容を考える中で、養成校卒業後、毎日の臨床での「今日の終わり方」について考えを巡らせることがあります。日々の臨床の終わりに、何に疑問を感じているか、学びたいと感じたことは何か、何に躓いているのかを知りたいと思っています。「今日の学びを明日に繋げたい」と思える研修会を提供していきたいので、多くのご意見をいただけますと幸いです。

さて、先日の九州学術集会鹿児島大会では、養成校時代の臨床実習指導者の先生にご挨拶する機会があり、とても懐かしいのと同時に初心を思い出して背筋が伸びる思いでした。発表する同期の姿には刺激を、教え子が発表する姿からは感動をもらい、学びで繋がる関係の素晴らしさを改めて感じた大会だったと思います。

今年度も日々の業務でご多忙の中、研修会へのご参加をいただき誠にありがとうございました。参加者した皆様の学びで繋いでいけるように努力していきます。来年度も新人教育研修会へのご参加を心よりお待ちしております。

学術局 新人教育担当 木佐貫太陽

研修会の要望（&お弁当情報）はこちらまで！

【Mail】 taiyo.kisanuki.st@gmail.com

地域局（鹿児島地区担当）

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加いただき誠にありがとうございます。地域局鹿児島地区担当理事の湯田です。今年度、鹿児島地区では症例検討会を2回開催しました。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、鹿児島地区では私が理事に就任して以降、初の現地開催を行うことができました。すべての演題で活発な討議ができ、現地開催ならではの熱量を感じました。ご参加いただいた皆さまありがとうございました。今後はより多くの方に参加いただけるよう日程や開催方法について検討していきます。ご意見のある方はぜひご連絡をいただければと思います。地域局では会員の皆さまへの情報発信をLINEにて行っております。現在約400名の方に登録をいただいております。まだ登録が済んでない方はご登録くださいますよう宜しくお願い致します。また、登録後に①所属②氏名③所属地区を返信していただいていない方は返信をよろしくお願いいたします。今後とも県士会活動にご協力よろしくお願いいたします。

鹿児島地区担当理事 湯田大介
鹿児島県言語聴覚士会 地域局理事（鹿児島地区）
kagoshimachiku2013.kaslht@gmail.com



社会局（地域リハ・広域担当）

先日、日本言語聴覚士協会主催の令和6年度 地域リハビリテーション活動支援都道府県士会担当者会議に参加いたしました。難聴高齢者支援について、大阪府豊中市での取り組みが紹介されました。具体的には、まず市保健所より府士会へ「ヒアリングフレイル早期発見事業」におけるイベントへSTの派遣依頼があり、語音聴取率60%未満の方などを対象に相談コーナーを担われていました。また、耳鼻科医や認知症専門医、耳脳科学総合研究所、認定補聴器専門店、ST、市職員で構成される「難聴・ヒアリングフレイル支援連携会議」が発足され、「[聴こえのガイド](#)」を作成し関係各所に配布する活動が行われていました。今後の課題としては、働く世代へ認知症予防の為にヒアリングフレイル周知、ヒアリングフレイルに関わるSTの育成が挙げられていました。鹿児島県言語聴覚士会においても、難聴支援に携わることができる人材の育成が必要と思われる、今後、研修会の企画などを検討していきます。また、厚労省による「[難聴高齢者の早期発見・早期介入等に向けた関係者の連携に関する手引き](#)」によると、石川県金沢市では特定健診での一環として高齢者への聴力検査等を実施しているモデル事例が紹介されており、この取り組みが全国的に拡大し、難聴高齢者の早期発見・早期介入に繋がることが期待されます。既に地域リハに携わっている方の中には、難聴高齢者の方へどの耳鼻科を紹介すればよいか悩まれている方もいらっしゃるのではないのでしょうか？その際は、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会HPにて[補聴器相談医の名簿](#)が都道府県別に公開されていますので、ご覧ください。

現在、鹿児島県より委託されている地域リハ事業として、リハビリテーション専門職派遣事業（市町村の依頼に合わせ介護予防教室や研修会の実施）、専門職アドバイザー事業（地域ケア会議立ち上げの支援や研修会の実施）があります。令和7年度より両事業を統一し、リハビリテーション専門職派遣事業へ専門職アドバイザーを派遣する方針となりました。今後、年度末に専門職アドバイザーとして活動していただける方を推薦・選定し、上記の事業内容に従事していただくことになります。専門職アドバイザーの要件の一つには、地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業 初期研修、地域ケア会議推進リーダー研修会、介護予防推進リーダー研修会を修了していることが挙げられます。初期研修に関しては、今年も7～8月の開催を予定しており、詳細は追ってお知らせさせていただきます。一人でも多くの方が地域リハに興味を持っていただき、ぜひ研修会に参加していただけることを願っています。



鹿児島大学病院 医療技術部 リハビリテーション部門
川路 勇太

TEL：099-275-5704 FAX：099-275-6846

社会局（地域リハ・鹿児島市担当）

現在、POS連絡協議会の活動の一環で、地域リハビリテーション支援活動（お達者クラブへの講師派遣）を実施しております。講師の希望者が少なく、講師をしていただける方を随時募集しております。活動に際して社会局が行っております研修の履修が必須となっておりますので興味のある方がいらっしゃいましたらご連絡下さい。

連絡先 鹿児島市医師会病院
言語聴覚士 瑞穂 哲也



社会局（公共事業・保険担当）

社会局（公共事業・保険）では、社会福祉法人 鹿児島県社会福祉協議会 介護実習・普及センター（カクイックス交流センター内に設置）と連携し、介護知識・技術の普及に関する業務として一般県民向け講座（やさしい介護教室）、介護専門職向け研修（介護職基礎研修）、教職員向け講座（公立学校共済組合鹿児島支部介護講座）への講師派遣を行っております。

令和6年度は、鹿児島県介護実習・普及センターより5件の講師依頼をいただきました。講座内容は、摂食嚥下領域に関する内容であり、一般県民・介護専門職・教職員向けに、それぞれカクイックス交流センターにて行われました。令和7年度は、4件の講師派遣を予定しております。

令和7年3月に令和6年度 鹿児島県介護実習・普及センター運営協議会が行われました。協議内容の詳細につきましては、鹿児島県言語聴覚士会のホームページに活動報告として掲載いたしますの、ご確認ください。

社会局（公共事業・保険）では、会員の皆様からお問い合わせ頂いた、診療報酬・介護報酬に関するご相談を主に承っております。診療報酬・介護報酬をはじめ施設基準等に関するご相談は、複雑な内容の場合、日本言語聴覚士協会にお問い合わせいただくこともございますが、疑問を持たれた点を県士会全体で共有するためにも、まずはお気軽に県士会にお問い合わせいただきたいと考えております。

鹿児島県言語聴覚士会お問合せフォーム: <http://st-ba.net/contact/>

医療法人 玉昌会 加治木温泉病院

総合リハビリテーションセンター 末吉 孝行

TEL:0995-62-0001 FAX:0995-62-3778

社会局（広報担当）

第13回 九州地区学術集会 鹿児島大会



今回は、2025年3月22日(土)～23日(日)の日程にて、カクイックス交流センターで、日本言語聴覚士協会 九州地区学術集会 鹿児島大会が行われましたので、みなさまにご報告です。

参加者はなんと361名！

県士会員を始め、九州の皆様ご参加いただき本当にありがとうございました。大会長ならびに実行委員長を中心に、1年6ヶ月前から準備を始め、無事に今大会を終了できたことを実行委員一同本当にうれしく思っております。

3名の講師による特別講演や特別企画、セミナーにシンポジウム、市民公開講座、50を超える一般演題発表、注文に時間がかかるカフェ。どの会場を覗いてもたくさんの方が聴講していました。皆さん内容にもご満足していらっしゃると思います。

そして、今回のテーマは「守破離」。先達が築いてくださった基礎を学び、これから言語聴覚士の新たな取り組みへと挑戦し、確立、発展していくためのきっかけを得たのではないかと思います。来年は宮崎大会です。引き続き、九州のSTで切磋琢磨し、言語聴覚士の世界をさらに盛り上げていきましょう。

2日間の日程で行われた中のごく一部ですが、大会の様子です。ご覧ください。

原口大会長 開会挨拶



社会局 広報担当
公益財団法人東風会 三船病院
大島亮平

竹中実行委員長 閉会挨拶



社会局（広報担当）

第13回 九州地区学術集会 鹿児島大会



飯干紀代子先生



椎名英貴先生

特別講演の様子



宇野彰先生



シンポジウム 黒羽真美先生

市民公開講座 中石真一路先生



一般口述発表



一般ポスター発表



企業展示



社会局（広報担当）

第13回 九州地区学術集会 鹿児島大会



注文に時間がかかるカフェ



懇親会



実行委員会 対面会議



実行委員 集合写真

財務局

会員各位

平素より県土会活動にご協力賜りありがとうございます。

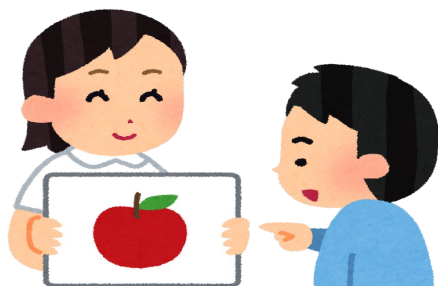
財務局担当 無所属 鎮守美和です。

会費の件等でご不明な点等ございましたら下記までご連絡ください。
対応させていただきます。

財務局メールアドレス

kago_st@yahoo.co.jp

担当 鎮守美和



☆編集男紙☆

会員各位

平素よりお世話になっております。いつもニューズペーパーをご覧くださいありがとうございます。広報局員として広報活動を行いながら、会員の皆様に少しでも良い情報をご提供できるように精進していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

広報局では、広報活動へ興味があり、ご協力いただける会員の方を随時募集しております！興味のある方は是非ご一報ください。（[お問い合わせ - 一般社団法人鹿児島県言語聴覚士会 \(st-ba.net\)](http://st-ba.net)）我々、広報局員と一緒に鹿児島県の皆様へ言語聴覚士という存在を…仕事や役割を…これからも活躍できる場が多くあることを知ってもらいましょう。また、会員の一人一人がその役目を担っていることもお忘れなく日々の業務に励んでいただきたいと思います。願っております。

末筆ながら、令和7年度も皆様にとって幸多き1年でありますよう、お祈り申し上げます。

米倉 拓哉